

社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣良次

2014. 8
No.252

他人のせいにならない『イナテックの行動指針』

『人のせいにならない』とは、イナテックの“行動指針”の一つであります。

人のせいばかりしていると何かさみしくなってくる。結局自分のしたことなのに。自分をもっと早く気付けばそんなことにはならなかっただろうに。もっと自分を磨き鍛えていけば・・・。

つまり何事においても、考え方だけで、自己責任だと私は思います。そのように考えると前向きに積極的に生きることが出来ます。

月刊誌『致知』の7月号で塩見志満子さんの記事がありました。

塩見さんは、現在は知的障害者のための通所施設を自費で運営しています。

塩見さんには二人の男の子がいましたが、「長男は小学2年生の時に白血病で亡くなりました。次男は長男が亡くなった8年後に、プールで水泳の時間にプールに沈んで亡くなりました。

塩見さんは当初、「押したのは誰だ。犯人を見つけるまでは、学校も友達も絶対に許さんぞ」と怒りが込み上げてきたそうです。

ところが高校の先生だったご主人は、「これは凄く悲しいことだ。だけど見方を変えてみる。犯人を見つけたら、その子の両親はこれから過ちとはいえ、自分の子は友達を殺してしまった、という罪を背負って生きていかなあかん。わしらは、死んだ子をいつかは忘れることがあるけん、わしら二人が我慢しようや。うちの子が心臓麻痺で死んだことにして・・・。」

そのご主人も62歳の時にトラックに撥ねられて亡くなりました。事故の相手の方が、塩見さんにとつて世界で一番憎らしいその人が、玄関に土下座をした時、塩見さんの口からこういう言葉が出たそうです。

「あなただけが悪いんじゃないの。車と人が喧嘩をしたら車が勝手に決まっています。あなたは若いから、主人の分まで生きて幸せになって下さいよ。そうしたら主人も成仏できる。どうかそうして下さい。」

若者は「そんな優しいことを言ってもらったら僕は生きられません。」と大声を上げて泣いたそうです。

塩見さんは「あなたを訴えてお金をもらっても死んだ者は帰らない。死んだ者が帰らないんだったら、生きていく者が精いっぱい生きるしかない。私はあなたを許すことからしか、次の一歩が踏み出せないのだから。職場に復帰して幸せになってください。」という言つて許しました。

恐ろしいほど究極の「人のせいにならない」姿だと思います。

確かに死んだ人は帰ってきませんし、誰もいつ、どこで死ぬかは分かりません。それは神のみぞ知る各々の定められた人生なのです。

『他人のせいにならない』ということを一度考えてみて下さい。

道元禅師からのメッセージ

私も永平寺には何度もお邪魔をしていますが、今まで気づきませんでした。

毎月、経営指導をしてくださっている矢野先生はそれに気づかれ、私に“道元禅師”からのメッセージを教えてくださいました。

この道元禅師のメッセージには人生や人の生き方、働き方・価値観について考えさせられる、奥深いものがあります。味わってみてください。

・人生に定年はない

人生に定年はありません。老後も余生もないのです。死を迎えるその一瞬までは人生の現役です。人生の現役とは自ら悔いなく生きる人のことです。そこには老いや「死」への恐れはなく「尊く美しい老い」と「安らかな死」があるばかりです。

・どう生きるか

生まれて死ぬ一度の人生をどう生きるか、それが仏法の根本問題です。長生きすることが幸せでしょうか。そうではありません。短命で死ぬのが不幸でしょうか。そうでもありません。問題はどうか生きるかなのです。

・ひとの価値

地位・財産・職業は関係ありません。知識・能力だけで人を評価すると過ちを招きます。知識を活かす心と行いから生ずるのです。人の価値は心と行いから生ずるのです。

7月の最終末に30時間・180マイルのヨットレースに参加させていただきました。

47艇が出場し、我々ジョーカーチームは11番目のフィニッシュでした。

軽風のスタートで、その後微風になってしまいました。風で走るヨットにとって無風というのは地獄です。潮流により太平洋のど真中でバックしてしまう有様でした。約15時間くらい、微風の中をさまよいました。反対に伊豆大島からは強風+霧というコンディションに見舞われ、何ともすばらしいレースでした。石原慎太郎氏のコンテッサは、微風でリタイアをした次

第です。

ヨットレースはそれなりですが、我がチームを指導してくれる石川社長は、『無事蒲郡に帰港(ホームポート)し、掃除をして整備をして、始めてレースというものは終了するんだ。決して掃除に手を抜くな。強いチームにはなれんぞ。』と我々にヨットに対する理念を説いて下さいました。私は心を打たれ、これは人生にも仕事にも通ずることであると確信いたしました。チームの皆さん、楽しませていただきありがとうございました。

菜根譚〈後編〉

第52回パールレース 外洋ヨットレースに参加